

TOSHIN STUDY_{New50}

東神油槽船株式会社 平成25年5月22日 B.Y安全管理室

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-5-14 入江ビル7階

TEL03-3270-3033 ・ FAX03-3241-2812

今回は、時期的にタイムリーな？こませ網漁業について、お話をしたいと思います。
こませ網漁業と船舶の安全航行に関する説明を始めると、長編になってしまうので、必要な部分だけをセレクトしてお話します。

こませ網漁について、漁法について今更説明はいらぬのでは？とも思いましたが、一応イメージの図を載せました。



この漁法は瀬戸内特有ですが、2艘曳きの底引き漁が元になっています。昔々、兄弟で底引き漁を行っていた漁師がいたのですが、兄弟げんかが元で1隻が網の一方を海に放り出してなくなったそうです。残された兄弟は、潮が速くてすぐに網を揚げることができず、転流時まで待って網を揚げてみたら、魚がいっぱい入っていたことにびっくりしました。と同時に、「網を流れの速いところに設置すれば、勝手に魚が入ってくるんじゃないか？」という発想になったわけです。船は1隻で済むし、網を曳く燃料代はかからない、といいこと尽くしな訳です。この経緯があるため、こませ網漁業は、一時的な固定漁具の設置ではなく、底引き網漁の変形、という理論が成り立ちます。(由来については、諸説あるかもしれませんが、この内容はこませの漁師さんから直接教えていただいたものです)

また、こませ網を設置している最中は、漁船は通常網にぶら下がっているのに、(網の錨を使用して) 錨泊しているようにも見えますが、海上交通安全法の「錨泊」(航路内での錨泊は禁止されている)には該当しないこととなっています。

ところで、ご存じのとおり、瀬戸内海のほとんどの海域は「海上交通安全法」という法律の適用する海域で、航路に沿って通航している船舶の優先航行が認められているものの、

巨大船以外は、漁をしている漁船に対して優先航行が認められていません。これは、海上交通安全法を作るときに、当時行われている漁業を原則そのまま認めただけでの海上交通ルールを作ったからです。なぜだと思いませんか？それは、いろいろな人が自分たちの立場からものを見ますが、香川の漁師さんの立場になってみれば、「岡山の企業の金儲けのために、お私たちの漁場に大きな船を通してやってるのに、何でお私たちの遠慮せんといかんのだ？」という見方もできるわけです。

特に底引きと違ってこませ網漁は、他の漁船の後ろに網を置いても魚が入らないので、潮の流れに対し、横に並んで設置することになるわけです。通航船が増えれば、当然もめます。もめた結果、過去には岡山の企業等が多額のお金を出し合って、航路内でこませ網漁を行っている人に廃業してもらったりしたのですが、その空いた水域にほかの場所でこませを行っていた漁師さんがやってきて、漁を再開したのが、今の状態です。

では、こませ網漁をしている漁師さんは、実際に自分たちが正道だと信じて堂々と操業をしていると思いませんか？私が直接お話を聞いた時には、やはり航路内で操業するのは怖いと言っていました。しかし、航路内が潮の流れる道にもなっていて、漁獲量も期待できるので航路内で漁をせざるを得ないそうです。また他の漁業との関係もあり、どこでも網を設置できるものでもないようです。漁師さんもそういったいろいろな思いや制限のなかで漁をしているようです。

海上運送に携^{たずさ}わる私たちとしては、通航する際に障害となるこませ網漁です。事実、インターネットで「こませ網」と入力して検索すると、過激な非難めいた発言内容が記載されたページを閲覧することもあります。しかし、お互いに非難ばかりしては、子供のケンカと同じで、現状を打破することができないのは、みなさんにも想像できると思います。

実は、この溝を少しでも埋めようとする努力も行われています。長年、こませ網漁等と航行安全について研究されている神戸大学（以前は神戸商船大学でした）の教授に議長となっただき、漁師さんや船主協会、水先人会、県の水産課、海上保安庁等が定期的に会合を開いて安全対策についていろいろ話をしていきます。目を見張る劇的な変化はありませんが、少しずつ歩み寄っています。その一例が、漁船側の灯火の統一や AIS 搭載です。最初は協力的に否定的な方が多かった漁師さんたちでしたが、協力することによって事故が減れば、結果として自分たちの安全操業につながるということを理解していただいた結果ではないかと思えます。

今回は、漁師さん目線での説明もしました。その心は「相手のことを理解することが必要」だからです。漁師の方に対し、上から目線でもなく、遠慮するのでもなく、お互いの

立場を理解して「譲り合いながら海を使う」という気持ちが、ときには安全運航の一助になると思います。

これからも、安全運航をお願いいたします。

(完)

編集後記

こませ網漁では、イカナゴをはじめとして、様々な魚が捕れるようですが、なかに「まながつお」という魚もあります。見たことのない方は、名前からカツオの一種？と思われると思いますが、実はズズキの仲間のようなのです。市場に出回るのは初夏の頃らしいですが、全国的に出回る魚ではありません。しかし、昔のことわざで、「西国に鮭なく、東国にマナガオなし」という言葉があるほど、西日本では美味で身が締まっているとして有名なお魚なので、魚屋さんで見かけたときには一度ご賞味されてはいかがでしょうか？私も刺身で食べた記憶があります。

